

## 興福寺の典籍文書調査

### 文化遺産研究部歴史研究室

当研究所では、興福寺所蔵の典籍・古文書の調査を継続しておこなっています。膨大な史料群について、1点ずつ調書を取り、ラベルを貼り、写真撮影を続けていくという、気の長い作業になります。しかし、未知の史料を探索する楽しい仕事です。

その成果の一部として、2004年3月には『興福寺典籍文書目録』三を公刊しました。第61函から第70函までを収録しています。時代はほとんどが、鎌倉時代から江戸時代にかけてです。平安時代の末に、興福寺は平家の南都焼討ちによって灰燼に帰しますから、それ以前の史料は極めて少ないのです。しかし今回収録分にも、平安時代のものが数点存在しました。それらは歴史の空白を埋める貴重な史料です。

時代も内容も多様ですが、多数を占めるのは、維摩会ゆいなどの法会ほうえに関わるものです。写真にあげたのは江戸時代の帳簿ですが、やはり法会関係のものです。ご覧のように形が少し変わっていて、膨大な量の紙を束ねています。しかしこれでも一冊の本なのです。持ち上げるのも開くのも一苦労です。

興福寺は維摩会を挙げる藤原氏の氏寺として発展し、平安時代の院政期には大和国を支配するまでになります。それ以降、奈良の歴史は興福寺を中心に展開していきます。その興福寺の史料の全貌が、当研究所の調査により、次第に明らかになってきているのです。 (文化遺産研究部 吉川 聡)



十七日分講問着到（興福寺所蔵） 第65函第1号